

—— 番組 ——

解説 上方落語界の現状 相羽秋夫

*

「ふぐ鍋」林家小染

「豊竹屋」桂花團治

「スタディベースボール」笑福亭仁智

中入

「町内の若い衆」三遊亭歌る多
(江戸落語ゲスト)

「ちしゃ医者」桂雀三郎

「天神山」桂文珍

お囃子／なにわの会

桂
文
珍

笑福亭
仁
智

桂
雀
三
郎

桂
花
團
治

三遊亭
歌る多

林
家
小
染

上方落語五流派競演会

茨木市文化振興財団第239回公演

寄席文字・橘右佐喜

2019.6.2[日] 14:00開演 (13:30開場) / 茨木クリエイトセンター・センターホール

[全席指定] 1階席 4,000円 / 2階席 3,500円

65歳以上、障害者及びその介助者 各500円引き / 青少年(24歳以下) 1,000円

茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き (この取扱いは財団のみ) ※就学前のお子様はご遠慮ください

予約開始 5月8日(水) 9:00～ (財団・ぴあ・ローソンチケット)

注：チケットのお申込み方法が変わります！

予約電話の混雑緩和の為、財団(電話・ネット)予約に加え、ぴあ・ローソンチケットでも予約初日9:00～特別電話番号による受付を行います。ぜひご利用ください。(ぴあ・ローソンチケットではお席は選ばいだけできません。)

■茨木市文化振興財団・文化事業係 ※オペレーター対応

【電話】072-625-3055 (9:00～17:00)

【HP】www.ibabun.jp (※要事前登録)

【窓口】チケットカウンター クリエイトセンター1階・福祉文化会館3階 (共に9:00～17:00・臨時休館日を除き年中無休)

※発売初日はインターネット・電話予約のみ (1回につき6枚まで) 窓口販売は発売翌日から、ただし残席がある場合のみ

■チケットぴあ ※席選択不可、自動音声対応

【電話】〈発売初日特電〉0570-02-9500 (Pコード不要/5月8日 9:00～23:59)

発売日翌日以降 0570-02-9999 (Pコード 491-758) http://pia.jp/ ※チケットぴあ、セブンイレブン各店舗で直接購入可

■ローソンチケット ※席選択不可、自動音声対応

【電話】〈発売初日特電〉0570-084-653 (Lコード不要/5月8日 9:00～23:59)

発売日翌日以降 0570-084-005 (Lコード 51524) http://l-tike.com ※ローソン、ミニストップ各店舗で直接購入可

●主催：(公財) 茨木市文化振興財団 ●制作：三栄企画 ●構成：相羽秋夫 ●後援：茨木商工会議所／茨木市観光協会

「クール」を迎えた五流派落語会

「クール」というフランス語は、放送界で連続番組のひと区切りの単位で、一般に十三回を「クール」と数える。その伝で言えば、『上方落語五流派競演会』も、「クール」を迎えたことになる。つまり、区切りの記念すべき会なのである。

「五流派」とは、上方落語界を支える一門を、大別すると五つある、という意味だ。「桂」は三流派あって、三代目米朝一門、三代目春團治一門、五代目文枝一門である。さらに、六代目松鶴を頭とする笑福亭一門、三代目染丸を仰ぐ林家一門。この五流派を指す。

この会は、そうしたそれぞれの一門で、「今」、輝いている逸材を一人ずつ推挙し、一門の名誉と意地を懸けた高座を展開するものである。必ずや皆さんのご満足を得られるものと確信している。それでは、今回の錚々たる顔ぶれと演目を出演順にご紹介する。

トップバッターは、林家一門の五代目林家小染だ。林家は、染丸直系と染語楼一門、それに小染を中心とする一門の三つに分かれる。総じて林家一門は、スケールの大きい芸と、木目の細かい芸を演ずる人に大別されるが、小染は先代ゆずりの大きな語り口調に特徴がある。

さらには、小染は酒の癖を得意としていて、「らくだ」や「一人酒盛」などの演目が十八番である。今回演ずる「ぶぐ鍋」は、林家のお家芸的存在の癖である。

続いては、三代目春團治一門の桂花團治。正確に言うと、三代目春團治の弟子二代目春蝶の三番

弟子だ。本当は六番目の入門だったので、蝶六の名が付いたが、兄弟子が三人引退した。

春團治、福團治、小春團治、梅團治など「團治」の名跡花團治を襲名して注目される。落語理論にすぐれ、大学の教壇に立つ他、茨木市の落語体験講座の講師をつとめ好評を博している。

「豊竹屋」は、浄瑠璃の入るむつかしい噺だけに、演じ手の少ない演目である。

中入のトリは、笑福亭一門を代表して笑福亭仁智がつとめる。

仁智は、六代目松鶴の一番弟子仁鶴の、これまた一番弟子である。近年体調の優れぬ仁鶴の代わりとして一門をまとめる上に、昨年から六代目の上方落語協会会長としての重責が加わった。

一方で、無類の創作落語テラーとして評価が高く、自作の噺が百話を超えた。その中でも最も人気を得ている極め付き「スタディベースボール」を口演する。

中入り休憩を経て登場するのは、東京よりゲストとしてお迎えした三遊亭歌る多だ。東京にもたくさんの方流落語家が活躍しているが、その第一人者である。歌奴の名でマスコミの寵児となった三代目円歌の弟子で、落語協会の理事を拝命している。

チャキチャキの江戸っ子。大学では経済学を学んだ才媛である。「江戸の建て倒れ」と言うが、立派な家を建てることを誇りにする江戸の気風をベースにした、ちよっぴりエロティックな「町内の若い衆」を演じてくれる。



相羽秋夫（演芸評論家）

米朝一門からは桂雀三郎が、満を持して出演する。

米朝の弟子二代目枝雀の門下で、南光に次ぐ高弟である。これまで古典一筋に努力を積み重ね、独自の雀三郎ワールドを築いてきた。その魅力に惹かれた熱狂的なファンを多く持っている。

一方で、ミュージシャンとしても大活躍で、ヒット曲「ヨードル食べ放題」が有名である。

「ちしゃ医者」は初夏の噺で、今の季節にぴったりの噺だ。雀三郎の飄々とした口調が、一層の笑いを誘う。

トリは、五代目文枝一門の桂文珍である。押しも押されぬ上方落語界の重鎮だ。幾度もの全国ツアーや二度にわたる東京での十日間連続独演会など、その偉業は数え切れない。

タレント活動から本格落語家への切り換えが見事に成功したのは、人氣に浮かれることなく落語への不断の努力を怠らなかつたためである。古典と創作の両方をバランス良くこなすが、今回は「天神山」という大古典を、師匠ゆずりの芸に一味加えて演じてくれる。

と、今回も充実した顔ぶれが揃った。白熱の高座の連続であることを保証する。お早めにチケットのご予約をされることをお勧めしたい。

冒頭にも述べたが、「クール」目に入る次回からは、五流派競演のベースを大切にしつつ、さらなる趣向を凝らした楽しい会を企画している。ご期待ください。

（敬称略）

＜[茨木市文化振興財団・文化事業係]で予約されたチケットのお引き取り方法＞

電話予約 ▶ 窓口・郵送 ※
HP（ネット予約） ▶ 窓口・郵送・セブン-イレブン引取 ※ ※要手数料：郵送400円、セブン-イレブン引取108円

窓口引取 予約後7日以内に財団チケットカウンターで精算・引取（ただし、予約開始日翌日から）

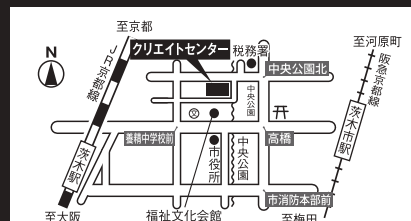
郵便払込・郵送 予約後5日以内に郵便局備え付けの「払込取扱票」で（チケット料金＋400円）をお支払い ※入金確認後発送
払込先（払込口座） 00970-7-190576 / 加入者名：茨木市文化振興財団 ※通信欄に予約番号・公演名・枚数を記入

（HP予約限定）セブン-イレブン引取

予約後7日以内にお近くのセブン-イレブン店頭で（チケット料金＋108円）をお支払いの上チケット引取

■公演に関するお問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055（クリエイトセンター1階 9:00～17:00）



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木市駅から西へ徒歩12分。

クリエイトセンター（茨木市市民総合センター）
大阪府茨木市駅前四丁目6番16号 **ibabun** 検索
072-624-1726